

「クロスワードに学ぶ」

昨日の朝、いつものように猫に起こされる。4時ごろから何度も私の寝ているところに近づき、早くおきろと、私の頭にふれる。結局、休みなのに6時前には起こされてしまう。それから朝をどうすごすか。新聞を広げたら、ナンバープレイスとともにクロスワードパズルが載っていた。頭の体操のつもりで、やってみた。

クロスワードの一つに、あまり聞きなれないことわざがあった。問題は「葦（あし）の〇〇から天井をのぞく」というもの。縦二文字。クロスワードだから、たとえ知らなくても、横のワードをうめていくと答えが出てくる。答えは「髓（ずい）」だった。葦の茎の細い穴を通して天井を見ても、すべてを見渡すことができないことから、自分だけの狭い見識で、大きな問題を論じたり、判断したりすることのたとえだそうだ。「井の中の蛙、大海を知らず」と同じような使われ方をする。

このことわざでは、狭い視野で物事を判断しては、物事の本質が分からず誤った判断になってしまうといている。狭い視野では本当の姿は見えない。そうならないために、広い視野を身に付けることが大事なのだと教えている。中学生の皆さんに合わせて言えば、自分の好き嫌いがあるにせよ、若い頃はいろいろなものに興味をもち、広く学習することが大切であり、それが将来、様々なことに結びつく。

実は、このことわざは「江戸いろはカルタ」の一つで、15番目の「よ」で出てくることわざ。1番目の「い」は、誰もが知っていることわざ「犬も歩けば棒に当たる」である。ちなみに、このことわざの意味は？と尋ねられたらどう答えるか。犬でもぼっーと歩いていると、電柱などの建造物に当たることもあると答えるかも。ネットで調べてみると、二つの解釈があり、一つはでしゃばると思わぬ災難にあうという戒め。もう一つはそれと正反対で、じっとしていないで、何でもいいからやってみれば思わぬ幸運にあうことのとえ。「棒」は災いと解釈するか、幸運と解釈するかで大きく違う。このカルタは48枚。いろいろ調べてみると面白い。

12月12日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 ●○○●○○●○○○●○○○○●○○○○○●○○○○○○●○○○○○○○●○○…

●と○を並べたとき、次の問いに答えなさい。

- ① 10番目の●は、左から何番目になりますか。
- ② 左から200番目までに、●は何個ありますか。